



平成25年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)



平成25年5月8日

上場取引所 東 札

上場会社名 サッポロホールディングス株式会社

コード番号 2501 URL <http://www.sapporoholdings.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 上條 努

問合せ先責任者 (役職名) コーポレートコミュニケーション部長 (氏名) 小松 達也

TEL 03-5423-7407

四半期報告書提出予定日 平成25年5月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年12月期第1四半期の連結業績(平成25年1月1日～平成25年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年12月期第1四半期	100,498	3.2	△4,755	—	△5,191	—	△3,068	—
24年12月期第1四半期	97,388	35.1	△5,581	—	△5,864	—	△4,126	—

(注)包括利益 25年12月期第1四半期 4,050百万円 (—%) 24年12月期第1四半期 △891百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円銭	円銭
25年12月期第1四半期	△7.84	—
24年12月期第1四半期	△10.54	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円銭
25年12月期第1四半期	584,583	134,860	22.5	337.22
24年12月期	597,636	134,946	22.1	336.60

(参考)自己資本 25年12月期第1四半期 131,640百万円 24年12月期 131,795百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円銭	円銭	円銭	円銭	円銭
24年12月期	—	0.00	—	7.00	7.00
25年12月期	—	—	—	—	—
25年12月期(予想)	—	0.00	—	7.00	7.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年12月期の連結業績予想(平成25年1月1日～平成25年12月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円銭
第2四半期(累計)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
通期	512,000	4.0	15,300	6.1	14,000	2.3	5,500	2.0	14.05

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有
 新規 一社 (社名) 、 除外 1社 (社名) サッポロ飲料株式会社
 (注)平成25年1月1日付にて、ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社とサッポロ飲料株式会社の合併を実施したことにより、サッポロ飲料株式会社が消滅したため特定子会社でなくなり、ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社が新たに特定子会社となりました。

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
 (注)詳細は、添付資料4ページ「2. サマリー情報(その他)に関する事項(2)四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
 ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年12月期1Q	393,971,493 株	24年12月期	393,971,493 株
② 期末自己株式数	25年12月期1Q	3,596,273 株	24年12月期	2,418,030 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	25年12月期1Q	391,378,116 株	24年12月期1Q	391,568,096 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等はさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1.当四半期の連結業績等に関する定性的情報(3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	4
2. サマリー情報(その他)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
(3) 継続企業の前提に関する注記	9
(4) セグメント情報	9
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	11
(6) 重要な後発事象に関する注記	11

○第1四半期決算短信補足説明資料

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第 1 四半期（平成25年 1 月 1 日～平成25年 3 月31日）の日本経済は、金融緩和に対する期待感から、株価が持ち直す等の明るい兆しが見えつつあるものの、消費環境は依然不透明な状況にあります。

このような経済環境のもと、当社グループの売上高は、国際事業で前年に連結子会社となった米国の P B チルド飲料メーカー「シルバー スプリングス シトラス社」の損益項目の連結開始が前年 4 月以降であったことに加え、市場構築途上にあるベトナムにて増収となったことや、不動産事業で複合施設「恵比寿ガーデンプレイス」物件の15%の信託受益権を共同保有者から取得したことによる損益項目への影響が前年 3 月以降であったこともあり、増収となりました。

営業損益は、国内酒類事業で前年同期に対して販売費が減少したことや、国際事業のベトナム市場での増収により、損失幅が縮小しました。

その結果、連結売上高1,004億円（前年同期比31億円、3%増）、営業損失47億円（前年同期は55億円の損失）、経常損失51億円（前年同期は58億円の損失）となりました。特別利益に、投資有価証券売却益を34億円計上した結果、四半期純損失は30億円（前年同期は41億円の損失）となりました。

なお、「ポッカコーポレーション社」と「サッポロ飲料社」との統合会社「ポッカサッポロフード&ビバレッジ社」が、当第 1 四半期より事業を開始しております。

以下、事業セグメント別の概況は記載のとおりです。当期より「国内酒類事業」で区分しておりました「サッポロ流通システム社」及び「食品・飲料事業」で区分しておりました「ポッカロジスティクス社」を「その他」の区分に変更しております。また、「食品・飲料事業」で区分しておりました「ポッカ フード シンガポール社」を「外食事業」の区分に変更しております。なお、「ポッカ フード シンガポール社」は、平成25年 4 月 1 日付にて「サッポロライオン シンガポール社」へ商号変更しております。

これに伴い、前年同期比較につきましては、前年数値を変更後セグメント区分に組み替えた数値と比較しております。

[季節性要因による影響について]

当社グループの業績は、国内酒類、国際、食品・飲料、外食事業の需要が特に夏に集中することから、大きな季節変動があり、第 1 四半期においては、売上高が他の四半期と比較して低くなる傾向があります。

【国内酒類事業】

当第 1 四半期のビール類総需要は、前年同期比98%に留まったものと推定されます。ジャンル別の売上数量では、ビールと発泡酒は微減、新ジャンルは伸びが鈍化したものの、引き続き前年同期を上回る需要となった模様です。

このような中で、国内酒類事業は、ビール類において主力ブランドへ経営資源を投下するとともに、ノンアルコールビールテイスト飲料やRTD（※）に成長の足がかりを求め、またワイン洋酒や焼酎の基盤を強化して、商品多層化によるブランド価値向上に取り組んでまいりました。

ビール類では、フレンチの巨匠ジョエル・ロブション氏がその味を認めた特別なエビス「薫り華やぐエビス」を2月に数量限定発売し、大変ご好評をいただきました。また、新ジャンルでは、2月に「麦とホップ」「麦とホップ<黒>」をリニューアル発売し、お客様から多くの支持をいただきました。その結果、ビールの売上数量では総需要の前年同期を上回り、ビール類合計の売上数量も総需要の前年同期並みに推移しました。

ノンアルコールビールテイスト飲料では、2月に「サッポロ プレミアムアルコールフリー」「サッポロ プレミアムアルコールフリーブラック」をリニューアル発売し、TVCMと連動した店頭販促やキャンペーンによる継続的な施策を展開しました。その結果、ノンアルコールビールテイスト飲料の売上数量は前年同期を大幅に上回り伸長しました。

RTDでは、「バカルディ マンゴーモヒート」や「サッポロ ネクターサワー チェリー&ピーチ」等、コラボ商品のブランドエクステンションを展開しました。

ワインでは、輸入ワインの重点商品である「イエローテイル」において、3月に新商品「イエローテイル ピンクモスカート」を発売し、ブランド力強化を図りました。また、国産プレミアムワインブランド「グランポレール」が引き続きご好評をいただきました。その結果、ワイン全体の売上高は前年同期を上回りました。

洋酒では、「バカルディ社」商品各種が、売上高の増加に寄与しました。

焼酎では、焼酎甲類乙類混和市場において、前年発売の「芋焼酎 こくいも」と「麦焼酎 こいむぎ」が引き続きご好評をいただき、売上高は前年同期を大きく上回りました。

以上の結果、国内酒類事業の売上高は502億円（前年同期比 5 億円、1%減）と減少しましたが、前年同期に対して販売費が減少したこともあり、営業損失は33億円（前年同期は48億円の損失）となりました。

※ Ready To Drinkの略。栓を開けてそのまま飲める低アルコール飲料

【国際事業】

北米においては、本格的な景気回復には依然不透明な状況が続いており、ビール市場の総需要は横ばい圏に留まったものと推定されます。一方、経済成長力の高いアジアのビール市場は、引き続き順調に成長を続けています。

このような中で、国際事業は、強みとするプレミアムビール市場に対し引き続き積極的な販売活動を行い、カナダでは、「スリーマン社」の売上数量（「サッポロ」ブランドの委託生産分及びカナダ国内販売分を除く）が前年同期比104%と7年連続で前年同期を上回りました。米国では、「サッポロUSA社」の「サッポロ」ブランドの売上数量が前年同期比110%になりました。また、前年1月に「シルバー スプリングス シトラス社」に51%出資して北米市場での飲料事業に着手し、売上数量は順調に推移しております。

ベトナムでは、前年4月以降「サッポロ」ブランド構築に向けてフルマーケティングを続けており、本格参入後初のテト（旧正月）商戦では大きく売上を伸ばしました。韓国では、前年1月に業務提携先である「メイル乳業社」のグループ会社に15%出資し、同国内の家庭用及び業務用市場へのビール販売を加速する取り組みを続けております。オセアニアでは、「クーバーズ社」とのライセンス生産を核として同市場での販売強化に取り組ましました。シンガポールでは、グループ内のシンガポール子会社との協働で同国内の家庭用市場への販路拡大を強化しております。これらの取り組みにより、アジアを中心とした北米以外のビールの売上数量は前年同期比255%となりました。

以上の結果、国際事業の売上高は、現地通貨建での既存事業の伸長のほか、前年同期には損益項目の連結をしていない「シルバー スプリングス シトラス社」の業績が上乘せされたことに加え、円安の影響もあり、99億円（前年同期比40億円、70%増）となり、営業損失は1億円（前年同期は4億円の損失）となりました。

【食品・飲料事業】

国内飲料の総需要は1月～2月は低温が続き、ホット専用ペットボトル飲料が順調に推移したものの、カテゴリ間で明暗が分かれました。3月は比較的天候に恵まれた結果、当第1四半期は、前年同期比101%前後にて推移したものとされます。また、レモン食品（調味料）は前年同期比100%、インスタントスープ（カップスープ含む）は前年同期比96%にて、推移したものと推定されます。

このような中で、食品・飲料事業は、1月より統合会社「ポッカサッポロフード&ビバレッジ社」の営業を開始し、主力ブランドへ投資を集中することにより、ブランドの強化と育成を図りました。

国内飲料食品事業は、国内飲料ブランドカテゴリにおいては、缶コーヒーの主力ブランドである「アロマックス」シリーズ、「がぶ飲み」シリーズ、「Ribbon」ブランドで新商品を投入し、春夏の需要期に向けた素材の拡充に努めました。レモン・ナチュラルフードカテゴリにおいては、国産レモン100%ストレート果汁の「広島レモン」、「キレートレモン」シリーズ、「オーシャンズプレー クランベリー」をリニューアル発売し、消費者への浸透を図りました。海外ブランドカテゴリにおいては、ドイツ産天然炭酸水「ゲロルシュタイナー」に注力し、順調に拡販を行いました。スープ食品カテゴリにおいては、「じっくりコトコト」シリーズ、「こんがりパン」シリーズ、「韓湯美味」シリーズのラインナップ強化を図りました。業務用カテゴリにおいては、「業務用とろけるプリン」をリニューアルし、また、商品提案力強化のため「1L業務用ポッカレモン 割材シロップ」を発売しました。

国内外食事業は、コーヒーショップ「カフェ・ド・クリエ」が、競争が激化するカフェ市場の中にあって、きめ細かなメニューの投入、既存店の店舗改装・新規出店の推進等の施策により、好調に推移しました。

海外飲料食品事業は、シンガポールにおける価格競争の激化や欧州経済危機を背景とした輸出売上減少という状況の中、コスト削減を着実に進展させました。また、当第1四半期より損益項目の連結を開始した「ポッカ エース マレーシア社」が順調に推移し、売上高に寄与しました。

海外外食事業は、昨年来、香港における中国本土からの観光客の減少等による市場全体の冷え込みの影響を受け、やや低調に推移しました。

以上の結果、食品・飲料事業の売上高は、276億円（前年同期比4億円、2%減）となり、営業損失は18億円（前年同期は12億円の損失）となりました。

【外食事業】

当第1四半期の国内外食業界は、消費者の節約志向が定着したことに加えて、「家飲み」や「中食」との競争が激化したことにより、依然として厳しい経営環境にあります。

このような中で、外食事業は、お客様にご満足いただける付加価値の高い名物料理の開発、生ビールの品質管理の徹底、サービスの向上を推進しました。販売促進としては、法人向け営業推進活動の強化による予約受注の推進や各種キャンペーンを実施することにより、来客数の増加を図りました。

一方、首都圏の一括センター配送体制を活用した購買戦略の強化や、店舗照明のLED化推進によるコストの圧

縮、不採算店舗の閉鎖等の今後に向けての収益構造改革も推進しました。

新規出店としては、「エビスバー」の京都出店と、スポーツ施設内の飲食施設受託により2店舗の出店を行いました。9店舗を閉鎖したことにより、3月末の店舗数は186店舗となりました。

またその他に、当第1四半期より「サッポロライオン社」の下でシンガポールの外食事業10店舗の運営をしております。今後、「サッポロライオン社」のノウハウ等を最大限に活かしながら、日本のビヤホール文化を海外に向けて発信していきます。

以上の結果、外食事業の売上高は57億円（前年同期比0億円、2%増）となり、営業損失3億円（前年同期は2億円の損失）となりました。

【不動産事業】

不動産業界は、首都圏オフィス賃貸市場において、新規オフィス大量供給の影響を受けた空室率が、徐々に改善傾向を示しつつありますが、賃料水準は弱含みの状況が続きました。

このような中で、不動産事業は、中核施設である「恵比寿ガーデンプレイス」をはじめ首都圏を中心とする保有物件が高稼働率を維持すると共に、前年3月に共同保有者より購入した「恵比寿ガーデンプレイス」物件の15%に設定された信託受益権が、当第1四半期は年初より売上高及び営業利益の増加に寄与しました。

来年開業20周年を迎える「恵比寿ガーデンプレイス」では、前年よりブランド力の強化と施設全体の利便性向上を目指したバリューアップを推進しており、その一環である非常用電源設備の増設工事を来年春完成に向けて着実に推進するとともに、オフィスワーカーや周辺居住者等に向けたサービス機能や商業機能の強化策も推進しました。

なお、1月に竣工し、2月より入居開始したシェアハウスの「シェビア恵比寿」は、高い入居率で好調にスタートしました。

一方、不動産開発では、恵比寿地区の新たな拠点となる「星和恵比寿ビル」が、来年秋竣工を目指し、3月より再開発建設工事に着手しました。また、銀座地区の四丁目交差点に位置する「サッポロ銀座ビル」の再開発についても、本格的な検討を開始しました。

以上の結果、不動産事業の売上高は53億円（前年同期比0億円、0%増）、営業利益は21億円（前年同期比1億円、6%増）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第1四半期連結会計期間末における資産は、投資有価証券の増加等があった一方、受取手形及び売掛金の減少等によって、前連結会計年度末と比較して130億円減少し、5,845億円となりました。

負債は、社債、長期借入金の増加等があった一方、短期借入金、未払酒税の減少等によって、前連結会計年度末と比較して129億円減少し、4,497億円となりました。

純資産は、その他有価証券評価差額金、為替換算調整勘定の増加等があった一方、期末配当の実施、当四半期連結累計期間の四半期純損失の計上等によって、前連結会計年度末と比較して0億円減少し、1,348億円となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成25年12月期の通期連結業績予想につきましては、平成25年2月8日に発表しました連結業績予想から修正は行っておりません。

2. サマリー情報（その他）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

平成25年1月1日付にて、ポッカサッポロフード&ビバレッジ(株)とサッポロ飲料(株)の合併を実施したことにより、サッポロ飲料(株)が消滅したため特定子会社でなくなり、ポッカサッポロフード&ビバレッジ(株)が新たに特定子会社となりました。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益（損失）に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	9,755	9,973
受取手形及び売掛金	83,581	61,550
商品及び製品	20,372	23,353
原材料及び貯蔵品	12,072	12,325
その他	12,763	13,507
貸倒引当金	△287	△180
流動資産合計	138,258	120,530
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	384,995	386,024
減価償却累計額	△205,155	△206,899
建物及び構築物（純額）	179,839	179,125
機械装置及び運搬具	210,465	212,792
減価償却累計額	△170,803	△172,849
機械装置及び運搬具（純額）	39,661	39,943
土地	115,413	114,990
建設仮勘定	4,425	2,976
その他	39,242	38,952
減価償却累計額	△25,520	△25,500
その他（純額）	13,722	13,451
有形固定資産合計	353,061	350,488
無形固定資産		
のれん	37,541	37,113
その他	7,444	9,080
無形固定資産合計	44,985	46,194
投資その他の資産		
投資有価証券	35,670	42,971
長期貸付金	9,783	9,528
その他	17,263	16,329
貸倒引当金	△1,386	△1,458
投資その他の資産合計	61,330	67,370
固定資産合計	459,377	464,053
資産合計	597,636	584,583

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第 1 四半期連結会計期間 (平成25年 3 月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	32,985	29,595
短期借入金	55,270	39,892
コマーシャル・ペーパー	47,000	48,000
1年内償還予定の社債	10,000	10,000
未払酒税	33,397	21,995
未払法人税等	3,830	1,143
賞与引当金	1,860	3,796
預り金	12,358	12,542
その他	46,443	42,426
流動負債合計	243,146	209,392
固定負債		
社債	32,000	42,000
長期借入金	113,376	122,052
退職給付引当金	7,385	7,094
役員退職慰労引当金	26	20
受入保証金	32,914	33,134
その他	33,840	36,027
固定負債合計	219,543	240,330
負債合計	462,689	449,722
純資産の部		
株主資本		
資本金	53,886	53,886
資本剰余金	46,308	45,910
利益剰余金	31,393	24,820
自己株式	△1,199	△1,222
株主資本合計	130,389	123,394
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,122	10,023
繰延ヘッジ損益	9	20
為替換算調整勘定	△3,725	△1,798
その他の包括利益累計額合計	1,406	8,245
少数株主持分	3,151	3,220
純資産合計	134,946	134,860
負債純資産合計	597,636	584,583

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第 1 四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第 1 四半期連結累計期間 (自 平成24年 1 月 1 日 至 平成24年 3 月 31 日)	当第 1 四半期連結累計期間 (自 平成25年 1 月 1 日 至 平成25年 3 月 31 日)
売上高	97,388	100,498
売上原価	62,812	65,785
売上総利益	34,576	34,712
販売費及び一般管理費		
販売奨励金及び手数料	6,927	6,780
広告宣伝費	6,685	6,005
給料及び手当	6,470	7,158
賞与引当金繰入額	1,472	1,352
退職給付費用	882	857
その他	17,718	17,312
販売費及び一般管理費合計	40,157	39,467
営業損失 (△)	△5,581	△4,755
営業外収益		
受取利息	69	62
受取配当金	35	66
為替差益	296	339
回収ギフト券損益	131	—
その他	327	268
営業外収益合計	860	735
営業外費用		
支払利息	860	734
持分法による投資損失	14	63
その他	269	374
営業外費用合計	1,143	1,172
経常損失 (△)	△5,864	△5,191
特別利益		
固定資産売却益	3	10
投資有価証券売却益	0	3,477
特別利益合計	4	3,487
特別損失		
固定資産除却損	135	129
減損損失	34	222
投資有価証券評価損	251	6
投資有価証券売却損	—	0
事業構造改善費用	—	176
特別損失合計	420	536
税金等調整前四半期純損失 (△)	△6,280	△2,240
法人税等	△2,104	806
少数株主損益調整前四半期純損失 (△)	△4,176	△3,047
少数株主利益又は少数株主損失 (△)	△49	21
四半期純損失 (△)	△4,126	△3,068

(四半期連結包括利益計算書)
(第 1 四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第 1 四半期連結累計期間 (自 平成24年 1 月 1 日 至 平成24年 3 月 31 日)	当第 1 四半期連結累計期間 (自 平成25年 1 月 1 日 至 平成25年 3 月 31 日)
少数株主損益調整前四半期純損失 (△)	△4, 176	△3, 047
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2, 250	4, 900
繰延ヘッジ損益	11	19
為替換算調整勘定	1, 029	2, 178
持分法適用会社に対する持分相当額	△6	—
その他の包括利益合計	3, 284	7, 098
四半期包括利益	△891	4, 050
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△884	3, 770
少数株主に係る四半期包括利益	△7	280

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報

[セグメント情報]

I. 前第 1 四半期連結累計期間 (自 平成24年 1 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント						その他 (注 1)	合計	調整額	四半期連結 財務諸表計 上額 (注 2)
	国内酒類	国際	食品・飲料	外食	不動産	計				
売上高										
外部顧客への売上高	50,754	5,868	28,120	5,641	5,368	95,753	1,634	97,388	-	97,388
セグメント間の内部売上高 又は振替高	447	5	36	-	602	1,092	4,283	5,375	△5,375	-
計	51,202	5,873	28,157	5,641	5,971	96,846	5,918	102,764	△5,375	97,388
セグメント利益又は損失(△)	△4,877	△412	△1,299	△291	2,008	△4,872	△88	△4,960	△620	△5,581

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、物流事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の合計額と四半期連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

セグメント利益又は損失(△)	金額
報告セグメント計	△4,872
「その他」の区分の損失(△)	△88
全社費用(注)	△647
セグメント間取引消去	27
四半期連結財務諸表の営業損失(△)	△5,581

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変更)

「国際事業」セグメントにおいて、SILVER SPRINGS CITRUS, INC. の株式を平成24年 1 月31日付けで取得し、同社を連結子会社としました。なお、当該事象によるのれんの増加額は当第 1 四半期連結累計期間においては421百万円であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

II. 当第1四半期連結累計期間(自平成25年1月1日至平成25年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注1)	合計	調整額	四半期連結 財務諸表計 上額 (注2)
	国内酒類	国際	食品・飲料	外食	不動産	計				
売上高										
外部顧客への売上高	50,246	9,953	27,637	5,741	5,391	98,969	1,528	100,498	-	100,498
セグメント間の内部売上高 又は振替高	444	15	27	0	641	1,130	3,895	5,025	△5,025	-
計	50,691	9,969	27,664	5,741	6,032	100,100	5,423	105,523	△5,025	100,498
セグメント利益又は損失(△)	△3,348	△190	△1,892	△318	2,135	△3,615	△135	△3,751	△1,003	△4,755

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、物流事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の合計額と四半期連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

セグメント利益又は損失(△)	金額
報告セグメント計	△3,615
「その他」の区分の損失(△)	△135
全社費用(注)	△781
セグメント間取引消去	△222
四半期連結財務諸表の営業損失(△)	△4,755

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社の連結子会社であるサッポロ流通システム(株)と(株)ポッカロジスティクスは、グループ本社機能を担うサッポログループマネジメント(株)の傘下にあるサッポログループ物流(株)の下で、平成25年5月1日にグループの物流事業を再編する予定です。

これに伴い、当第1四半期連結会計期間より、従来「国内酒類事業」に区分しておりましたサッポロ流通システム(株)及び従来「食品・飲料事業」に区分しておりました(株)ポッカロジスティクスを「その他」の区分に変更しております。

また、連結子会社間の株式譲渡による組織構造の変更に伴い、当第1四半期連結会計期間より、従来「食品・飲料事業」に区分しておりましたPOKKA FOOD (SINGAPORE) PTE. LTD. を「外食事業」の区分に変更しております。

なお、前第1四半期連結会計期間のセグメント情報は、変更後のセグメント区分で記載しております。

(注) 「POKKA FOOD (SINGAPORE) PTE. LTD.」は、平成25年4月1日付にて「SAPPORO LION (SINGAPORE) PTE. LTD.」へ商号変更する予定です。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「国際事業」セグメントにおいて、生産拠点再編に伴い、機械装置等の固定資産の帳簿価格を回収可能価額まで減額しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第1四半期連結累計期間においては222百万円であります。

(のれんの金額の重要な変更)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

- (5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。

- (6) 重要な後発事象に関する注記
該当事項はありません。